公開講演会

日本と中国の七夕詩

講師

興膳 宏（こうぜん ひろし） 京都大学名誉教授

2005年5月20日(金) 13時15分～14時45分(開場：12時45分)

会　　場　東京女子大学善福寺キャンパス（杉並区善福寺2-6-1）

アクセス　JR西荻窪駅または吉祥寺駅より関東バスで「女子大前」下車

問い合わせ　行事案内テープ　TEL　03(5382)6749

教育研究支援課　TEL　03(5382)6470

東京女子大学URL　http://www.twcu.ac.jp

申込不要・聴講無料・定員350名

東京女子大学比較文化研究所

公開講演会

日本と中国の七夕詩

◆講師紹介

こうぜん　ひろし
興膳　宏（京都大学名誉教授）

1936年福岡県生まれ。京都大学文学部中国文学科卒業。同大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。京都大学教授、京都国立博物館長を経て、現在、京都大学名誉教授。専攻は、中国文学。
主著に、『文鏡秘府論・文筆眼心抄』、『中国の文学理論』、『異域の眼―中国文化散策―』、『老子・荘子』（共著）（いずれも筑摩書房）、『隋書経籍志詳攷』（共著、汲古書院）、『六朝詩人傳』（編著、大修館書店）、『乱世を生きる詩人たち―六朝詩人論―』、『古典中国からの眺め』（いずれも研文出版）など。

◆講演梗概

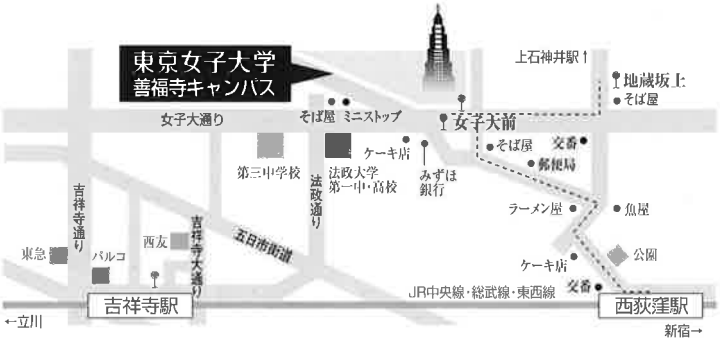
七月七日の七夕は、三月三日や九月九日と並んで、中国で古くから重要な年中行事として親しまれてきた。また、詩のテーマとしても、『詩経』の小雅「大東」に牽牛織女の故事が詠われるのをはじめ、「古詩十九首」以下さまざまな作品で取り上げられてきたが、ことに六朝から唐にかけては、多数の七夕を詠じた詩が作られている。日本でも、最古の漢詩集『懐風藻』に六首の「七夕」詩が収められており、七夕に寄せられた関心の大きさが察せられる。

ここでは、『懐風藻』と六朝・唐の「七夕」詩を比較しながら、それらの作品を通して、奈良朝の詩人たちが漢詩という文学形式を定立させるために注いだ工夫の一端を検討してみることにしたい。

◆交通案内

アクセス

■ JR 西荻窪駅北口より徒歩 12 分。
■バス利用のときは
西荻窪駅北口（1 番のりば）から吉祥寺駅行、女子大前下車。
吉祥寺駅北口（3 番のりば）から西荻窪駅行、女子大前下車。
上石神井駅南口から西荻窪駅行、地蔵坂上下車 5 分。
〒 167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1



東京女子大学比較文化研究所